

# 平成28年度 水道事業会計予算

# アセットマネジメント（資産管理）の取組 ～『未来に引き継ぐいわきの水道』の実現に向けて～

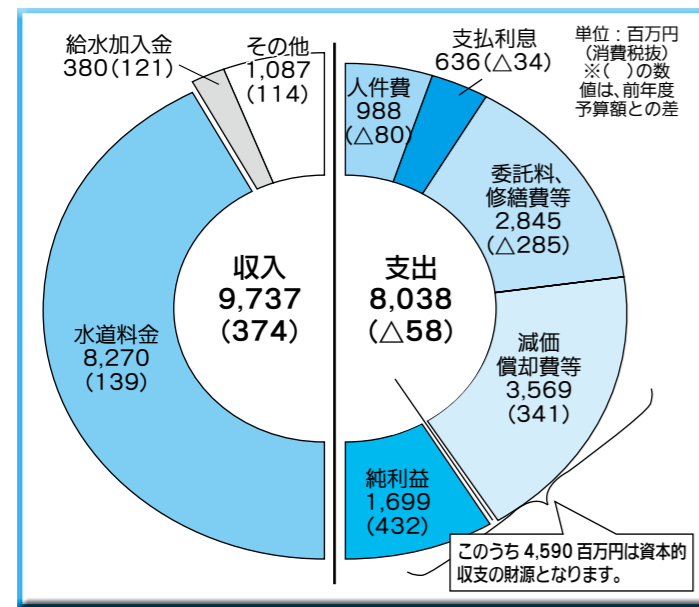
～みなさまからいただいた水道料金はこのように使われます～

水道料金収入は、平成24年度には東日本大震災以前に近い水準まで回復したものの、その後は、給水人口の減少や節水意識の定着などにより減少傾向にあり、今後もその傾向は続くものと見込まれます。

このため、事務事業の簡素・効率化など経費の節減に努めながら、老朽施設の更新などの対策を計画的に実施するため、次のとおり予算を計上しました。

## 収益的収支

### 水道水をつくり、お届けするための収支



収入では、総額約97億3,700万円を見込んでおり、前年度と比較すると約3億7,400万円の増となります。これは、主に新築住宅の建築件数の増加や、一部製造業における生産増に伴う使用水量の増加などによる水道料金と給水加入金の増加によるものです。

一方、支出では、総額約80億3,800万円を見込んでおり、前年度と比較すると、約5,800万円の減となります。これは、減価償却費等が増加するものの、人件費、委託料、修繕費等の維持管理にかかる経費の減少によるものです。

以上により、収入から支出を差し引いた純利益は、約16億9,900万円となり、水道施設を整備するための財源となります。

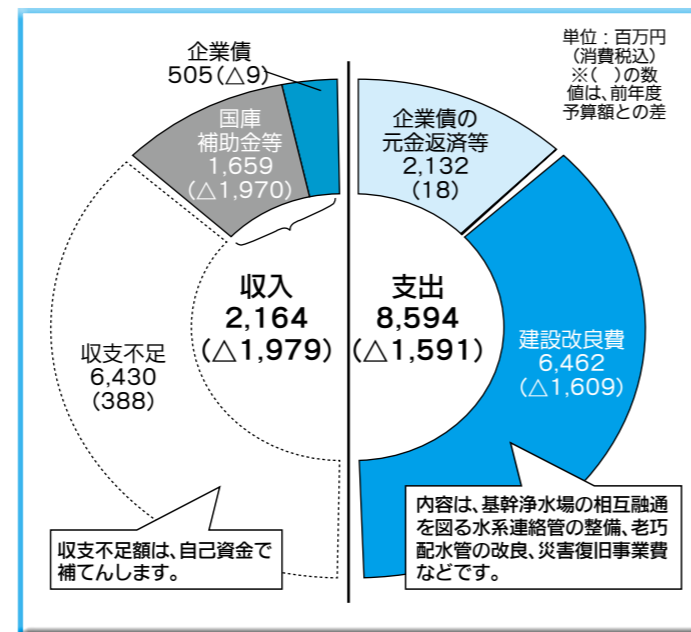
## 資本的収支

### 水道施設を整備するための費用と財源

支出では、総額約85億9,400万円を見込んでおり、前年度と比較すると約15億9,100万円の減となります。

建設改良費は、災害復旧のための費用や老朽化した水道施設の改良・更新のための費用などで約64億6,200万円、また、施設整備のために過去に借入れた企業債の元金返済額などで約21億3,200万円となっています。

これらの財源としては、借入金である企業債、災害復旧のための国庫補助金などで、総額約21億6,400万円を見込んでいるほか、残りの約64億3,000万円については、自己資金（上記の収益的収支で確保した純利益、減価償却費相当分の資金等）で補てんします。

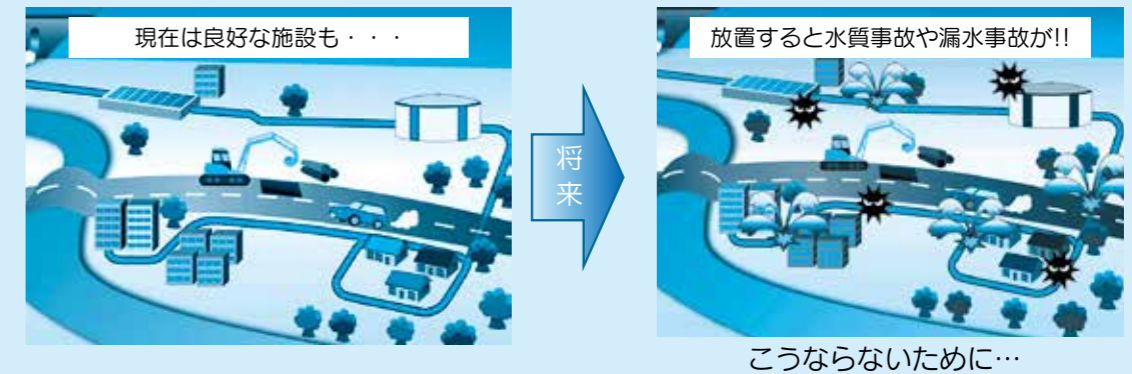


## ○ アセットマネジメントの必要性

本市では、いわき市合併以降に整備した水道施設（浄水場や配水池、配水管など）の老朽化が進み、今後、大量の水道施設が更新時期を迎えます。

施設の老朽化が進むと、水質事故や大規模な漏水事故などが発生することにより、水道水の供給に支障を来すおそれがあります。

水道局では、市民生活に欠かせない水道水を継続的に供給していくため、「アセットマネジメント（資産管理）」の手法を活用し、施設更新費用の平準化やライフサイクルコストの縮減など、中長期の視点で計画的に水道施設の更新を進めていきます。



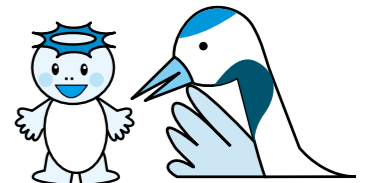
## (1) 水道事業における「アセットマネジメント（資産管理）」とは？

「今後必要な水道施設の更新費用」と「水道施設更新への投資可能な額」の将来の見通しを立てた上で、もし、水道施設更新への投資可能額が不足することが分かった場合には、その不足額を確保するための方策を検討するなど、持続可能な事業運営を目指すための管理手法です。

## (2) アセットマネジメントの活用で得られる効果

アセットマネジメントを活用することで、次のような計画を作成し、事業費を圧縮しながら、持続可能な経営を目指すことができます。

- 水道システム再構築計画（長期の水需要を踏まえた施設再編の実施）
- 水道施設更新計画（中長期の視点による最適な施設更新の実施）
- 水道施設耐震化計画（耐震診断等に基づいた施設改良の実施）
- 資金計画（上記計画を進めていくための長期的な財政収支見通し）



※ 今後40年間の事業運営の試算をすると、水道施設を法定耐用年数で更新した場合、平均更新費用は約71億円/年になるのに対し、上記の計画を基本に、本市更新基準で水道施設を更新した場合、平均更新費用は約38億円/年となる見込みです。

## (3) 今後の事業運営の進め方

水道局では、いわきの水道を次世代に健全な姿で引き継いでいくために、水道システム再構築計画や水道施設更新計画等に基づき、水道施設の統廃合、更新及び耐震化を実施するなど、効率的かつ効果的に事業を進めてまいります。

次号からは、水道システム再構築計画や水道施設更新計画等の、個別の計画について取り上げる予定です。